

2026
January

学生だより

vol.58

発行人／武藤 智美 発行／公益社団法人 日本歯科衛生士会

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19 TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023 <https://www.jdha.or.jp/>

愛知学院大学短期大学部



関西女子短期大学



仙台青葉学院短期大学



三重県立公衆衛生学院



長崎歯科衛生士専門学校



M e s s a g e

“今”が未来をつくる

公益社団法人 日本歯科衛生士会

副会長 石川 奈保美

新しい年を迎え、皆様は、どのように過ごしたいと思われていますか。学生時代は学ぶことも多く、不安を感じることもあるかもしれませんが、学校の先生や実習先の歯科衛生士が丁寧に指導してくれて多くの経験を積むことができると思います。仲間とともに、将来、患者さんの健康のために活躍できる歯科衛生士を目指して、貴重な学生時代を大切に過ごしてください。

歯科衛生士という職業は、患者さんや利用者の方々に寄り添い、直接コミュニケーションをとる機会が多い、とてもやりがいのある仕事です。「ありがとう」と直接感謝の言葉を言ってもらえる喜びを感じられることも多く、また患者さんから学ぶこともたくさんあります。

日本歯科衛生士会は、歯科衛生士の皆様の活動を応援しており、生涯研修や、認定制度など、様々なサポートを提供しています。賃金や産休といった働く環境の整備にも力を入れ、歯科衛生士の声を集約し、社会に届ける役割を担っています。学生の皆様とともに“今”を見ながら未来の歯科衛生士をつくっていきたいと願っています。

目次

- 活躍する歯科衛生士 ……02
- 歯科衛生研究にチャレンジ ……03
しましゅう
- 学生紹介 ……04-05
仙台青葉学院短期大学
三重県立公衆衛生学院
関西女子短期大学
長崎歯科衛生士専門学校
- 日本歯科衛生士会会員の ……06
国際活動紹介
- 生涯研修によって広がる ……07-08
歯科衛生士の未来
- 学会雑誌について知ろう! ……08
- 入会案内 ……08

活躍する歯科衛生士

FILE
20

“口からはじまる全身の健康”を
医科歯科連携を通して支える未来志向の歯科衛生士へ

仕事の内容について

私は現在、鹿児島市内の竹内歯科クリニックで主任歯科衛生士、しゃもとデンタルクリニックにて副院長として勤務しています。日本歯周病学会認定歯科衛生士と日本歯科衛生士会認定歯科衛生士【認定分野A】糖尿病予防指導、CDEJ認定機構が定める地域糖尿病療養指導士、医学修士の資格も活かしながら、医科と歯科の連携を視野に入れた糖尿病重症化予防、未病対策や歯周病予防で幅広い世代の方々が“健口から健幸へ”、をモットーとして臨床に力を注いでいます。

日々の診療では、歯周病管理や口腔機能の評価に加えて、生活背景や栄養・服薬管理にも目を向けた「患者さんの暮らしに寄り添う支援」を心がけています。特に糖尿病との関わりは深く、口腔内の炎症が血糖コントロールに及ぼす影響をふまえて、歯周基本治療と並行して生活習慣の見直しや食事指導なども行っています。歯科衛生士は、患者さんの口の中を診て、その背景にある生活や身体の状態を“想像する力”を必要とする職業です。そこから読み取った情報をもとに、患者さん一人ひとりに合った歯科疾患予防と生活習慣改善の入り口として歯科が担える役割の広さを日々実感しています。

また、新人歯科衛生士の育成や院内研修の企画、地域や学会での講演活動にも

取り組み、歯科衛生士の専門性をより広く社会に届ける役割も担っています。

やりがい・魅力・将来の夢

歯科衛生士という仕事の最大の魅力は、「患者さんの人生に深く関わることができる」という点にあると思います。口腔内の小さな変化を通して、その人の食べ方・暮らし方・疾患リスクを把握し、将来の健康を支えることができます。

私は現在、鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 医科学専攻 糖尿病・内分泌内科学分野の博士課程に在籍し、医学博士を目指して糖尿病と歯科の関連性をテーマに研究を進めています。臨床・教育・研究の3つを軸に、科学的な根拠に基づいた歯科衛生士の支援が当たり前になる未来を目指しています。

そして、「OraDia」（オーラディア）という医科歯科連携コーディネートDHとしての事業も立ち上げています。“Oral”（口腔）と“Diabetes”（糖尿病）を組み合わせた造語で、「口腔から糖尿病のある方を支える、または糖尿病を予防することで人生のWell-beingを高める」という社会的使命を掲げています。

将来的には、医科歯科連携の架け橋として、地域に根ざした健康づくりを推進し、歯科衛生士の新しい働き方の提案にも挑戦したいと考えています。患者さんの“口からはじまる全身の健康”を守る存在として、社会に信頼される専門職であり続けたいです。

学生さんへのメッセージ

歯科衛生士の学びは、“人を診る力”を育ててくれる素晴らしいものです。今はまだ臨床が漠然としているかもしれませんが、ひとつひとつの学びが、患者さんの生活を支える大きな力になります。

たけうち りなさん
竹内 里奈さん

（鹿児島県歯科衛生士会）
竹内歯科クリニック
しゃもとデンタルクリニック
OraDia



私たちの仕事は、治療のアシスタントや歯石を取るだけではありません。患者さんの口の中から、その人の生活背景や全身状態を読み解き、「どうすればこの人がもっと健康に、快適に生きられるか」を考え、行動する専門職です。知識や技術だけでなく、想像力と論理的思考力、対話力がとても大切になります。

ぜひ、学生のうちからたくさんの経験をして、自分らしい歯科衛生士像を育ててください。これからの時代、歯科衛生士はもっと多様な場面で活躍できるはずです。仲間と学びながら、一步一步前へ進んでいきましょう。

PROFILE

プロフィール

- 2015年 歯科衛生士国家資格取得
- 2015年～現在 竹内歯科クリニック 勤務
- 2018年 鹿児島県地域糖尿病療養指導士取得
- 2020年 糖尿病予防指導認定歯科衛生士取得
- 2021年 日本歯周病学会認定歯科衛生士取得
- 2022年～現在 しゃもとデンタルクリニック 勤務
- 2023年 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 医科学専攻 糖尿病・内分泌内科学分野 医学修士課程修了
- 2024年～現在 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 医科学専攻 糖尿病・内分泌内科学分野 医学博士課程 在籍中
- 2025年～現在 OraDia設立



歯科衛生研究にチャレンジしましょう

学生会員または卒業後1年未満の本会会員を対象とした「学生研究賞」があります。

令和7年日本歯科衛生学会 第20回学術大会で、学生研究賞を受賞された佐藤由香さんの研究をご紹介します。

「学生研究賞」をいただいて

東京科学大学大学院 医歯学総合研究科 修士課程
医歯理工保健学専攻 口腔健康教育学分野 在籍
東京医科歯科大学(現・東京科学大学) 歯学部
口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻 卒業

さとう ゆか
佐藤 由香



私は日本歯科衛生学会 第19回学術大会において「歯科衛生学生による看護学生への口腔ケアに関する健康教育の効果—フィードバックからの検討—」という研究についてポスター発表を行い、翌年学生研究賞をいただきました。この研究は東京医科歯科大学(現・東京科学大学)在学中に卒業研究として実施したものです。大学で多職種連携について学んだ際に、卒前から他学科の学生と学ぶことはチーム医療の基礎を培う上で重要であると考えました。そこで本研究では某大学口腔保健衛生学専攻学生(以下DHS)から看護学専攻学生(以下NS)へ口腔ケアに関する健康教育を実施し、DHSが行った健康教育の効果、また、どのような工夫がNSの学びや学習意欲などに繋がったかを検討しました。

◆ 研究の概要

対象者は、DHS4年生が企画・実施した口腔ケアに関する連携実習プログラムを受講したNS2年生55名のうち、実習後に自由記述型のフィードバックを得られた者です。フィードバックの分析にはKH Corderを用いてテキストマイニングを行い、頻出語表から共起ネットワーク図を作成しました。合同実習は、体験を含む実習(A：要介護高齢者への口腔ケアの手技・B：口腔評価や義歯管理、口腔ケア用品について)と口腔ケアに関するテーマについてのグループディスカッションで構成されています。DHSがそれぞれの内容を計画立案し実践しました。それぞれのフェーズはDHS1名に対してNS4～5名の小グループにて実施しました。

◆ 研究結果抜粋

実習A・Bに対するフィードバックからは、いずれも実習テーマに関連する用語やカテゴリーが抽出されており、実習における体験を通して口腔ケアの手技や口腔ケア用品への理解、口腔アセスメントOHATや義歯管理に関する知識の獲得と理解、また口腔ケアを受ける患者の立場理解促進に繋がったことが示唆されました。グループディスカッションに対するフィードバックからは、職種ごとの視点の違いや専門性について考え認識する機会となったことが示されました。連携実習プログラム全体に対するフィードバックからは、プログラム全体を通して他職種の専門性や多職種連携の重要性について理解を深められたことが示されました。

◆ 研究を行ってみて

本研究は私にとって初めて行う研究でした。「自分が興味を持った内容を研究する」ということから始めた研究でしたが、最初は研究の難しさに悩むことも多々ありました。進める中でもわからないことにぶつかることがありましたが、担当の先生方が真摯に向き合ってください、最終的に卒業研究を形にすることができました。そこから今回のポスター発表をすることができ、大変嬉しいことに学生研究賞という素敵な賞をいただくことができました。

学生の皆さんの中には、「研究は難しいもの、大変なもの」と感じている方もいるかもしれません。確かに悩むことや難しいこともあります、自分が決めたテーマに沿って研究を実施する過程で、研究を行うからこそ得られる「わかること」の面白さやデータを見ることの重要性に気づくことができると思います。学生のうちは、わからないことがある際、先生に教えていただくこともできる環境だと私は感じています。日常で感じた興味や疑問をテーマに、是非研究に取り組んでみてください。

現在は修士課程に在籍しており修士論文の作成に取り組んでいるところなので、完成に向け励んで参ります。





せいりゅう
仙台青葉学院短期大学
歯科衛生学科 3年

しば さき はる あ
柴崎 遥愛さん

山形県天童市出身 東海大学山形高等学校卒業

私が歯科衛生士を目指したきっかけは、小さい頃から「笑った時の歯がきれいだね」と褒めてもらうことが多く、その言葉が嬉しかったことが始まりです。その経験から、歯の健康を維持することが笑顔や自信につながると感じ、自分も誰かの笑顔を支える仕事に就きたいと思うようになりました。

現在の学校生活では、歯科に関する知識や技術だけでなく、



患者さんに安心していただくための声かけや説明の方法など、信頼関係を築く大切さも学んでいます。特に学生同士で行う相互実習では、自分が患者の立場になることで、



どのような声かけや気遣いをしてもらえると安心して治療を受けられるのかを体感しました。また、口腔内での器具の扱い方や動作の丁寧さが、患者さんの信頼を得るうえでとても重要であることも学んでいます。毎日の授業での気づきや、指導の内容を授業後に振り返り、整理して次に繋げる事で着実に成長をしていると実感しています。

将来は、患者さん一人ひとりに信頼される歯科衛生士として、診療室全体を見渡しながらチームを支えられる存在になりたいです。そして日々の診療の中で歯科衛生士として患者さんと信頼関係を築きながら成長し続けていきたいです。

そのために日々の学校での学びを大切に、講義や実習をとおして得たものを自分の力にしていく努力を続けたいと思います。そして、国家試験全員合格という目標に向かって学年全体で高め合いながら勉強に励んでいます。

輝け
未来
歯科衛生士
学生



三重県立公衆衛生学院
歯科衛生学科 3年

みず たに な つ こ
水谷 奈津子さん

三重県立四日市商業高等学校卒業

私は小学生の頃に歯列矯正を経験し、そのときに担当してくださった歯科衛生士さんの優しい対応や、笑顔で支えてくれた姿を見てこの職業に興味を持ちました。通院を重ねるうちに、歯科衛生士という仕事が患者さんの健康や笑顔を支える大切な存在であることを知り、私も歯科衛生士を目指したいと思うようになりました。



現在は臨床実習をとおして、学校で学んだ知識・技術が実際の臨床とつながっていることを日々実感しています。また、先生方や歯科衛生士さんが患者さんに対応される姿を見て、技術

だけでなく、思いやりの心や丁寧な対応の大切さも改めて感じました。実習は大変なことも多いですが、その分、自分の成長を感じる瞬間も多く、やりがいを感じています。友達と励まし合いながら経験を積み、確かな力を

身につけていきたいと思っています。毎日の実習で見つける小さな発見や学びが、自分の成長につながるのを少しずつ感じています。

将来は、患者さん一人ひとりに寄り添い、信頼される歯科衛生士になりたいです。安心して治療を受けてもらえるように、知識や技術、そして人間性を磨き、笑顔でサポートできる存在を目指して、これからも努力を重ねていきたいです。また地域の方々にも安心して信頼いただける歯科衛生士として、温かく寄り添う支えとなれるよう努力していきたいです。





関西女子短期大学
歯科衛生学科 3年
たけ いし こ み
武石 采巳さん

大阪府立狭山高等学校卒業



私が歯科衛生士という仕事に興味を持ったのは、中学生の時でした。母が看護師として働く姿を見て、医療に携わる仕事に憧れを持つようになり、父が歯科技工士ということもあって、自然と歯科の分野に関心を持ちました。特別なきっかけがあったわけではありませんが、身近な存在から影響を受けて「自分も人の健康を支えられる仕事に就きたい」と思うようになりました。

高校3年生のとき、部活動を引退してすぐに歯科医院でアルバイトを始めました。初めてのアルバイトで、礼儀や言葉遣い、仕事の流れなど何もわからず、経験豊富の方が多かったため、迷惑をかけてばかりでした。アルバイトに行くのが嫌になることや、辞めたいと思ったことも何度もありましたが、いつか自分のためになると信じて続けました。すると徐々に仕事を任せてもらえるようになり、頼りにしてもらえることが増え、とても嬉しかったです。その経験から、言葉遣いや礼儀の大切さ、人と関わるうえでの気配りを

学ぶことができました。

臨床実習では、その経験が大いに活かされました。最初は緊張と不安でいっぱいでしたが、患者さんに義歯の使用方法、抜歯後の注意点の説明などを行う中で、相手の目線に合わせて分かりやすく伝えることの大切さを学びました。その時、歯科衛生士は技術だけでなく、患者さんの不安を取り除く存在であることを実感しました。また、先生や歯科衛生士の方々と連携して治療を進める中で、チーム医療の一員として責任を持つことの大切さも感じました。

これからは学んだことを糧に、患者さんに寄り添い、安心して任せてもらえる歯科衛生士を目指していきたいです。



未来の 衛生士

紹介



長崎歯科衛生士専門学校
歯科衛生士科 2年
きた り り か
北 梨々花さん

長崎市立長崎商業高等学校卒業



私が歯科衛生士を目指したきっかけは、元々、医療系の職業に興味があり、人の健康を支える仕事に就きたいと考えていたことです。将来について考えていた時、母から歯科衛生士という職業を薦められ興味をもちました。調べていくうちに、歯科衛生士は病気のある方だけでなく、健康な人とも関わることができる仕事という点に魅力を感じ、この学校を志願しました。

学校生活では、専門的で幅広い分野の授業が多く、すべて一からのスタートでした。初めは分からないことだらけで不安しかありませんでしたが、先輩からブラッシング指導を受ける際、座学や実習についてたくさん相談し不安を解消してきました。また、学生同士で行う相互実習では、実際に人の口をとおりて学ぶことができ、日に日に知識や技術が身についてきたと感じています。現在は、後輩へのブラッシング指導を行い、相談を受ける立場へ成長していると実感しています。このように日々、充実した毎日を送ることができています。もうすぐ臨床実

習が始まりますが、学内で学んだことを活かし、さらに多くの学びを得て、国家試験や資格取得後に役立つような機会にしたいですし、目標となる歯科衛生士像を明確にしたいと思っています。

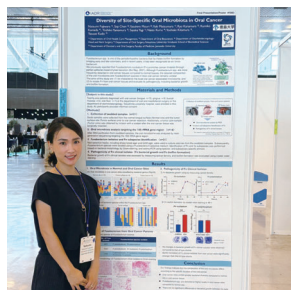
将来は、歯科の需要が高まっている中、患者さん一人ひとりの悩みや不安に寄り添える歯科衛生士になりたいと考えています。口腔の状態や生活習慣、年齢や悩みなどは人それぞれ違うため、その人に合った指導やアドバイスができるように、これからも多くの知識やコミュニケーション力を身につけ、技術を磨く努力をし、目標とする歯科衛生士像を実現できるようにしていきたいです。



日本歯科衛生士会会員の 国際活動紹介

歯科衛生士が国内のみならず世界に向けて発信することは、国際交流のきっかけや活性化につながるとともに自分自身のスキルアップにもなります。
今回は、日本歯科衛生士会の会員が体験した海外での学会発表や教育活動をご紹介します。

国際歯科研究学会 (IADR) 学術大会の参加報告と 国際学会への誘い



ふじ わら な つ み
藤原 奈津美

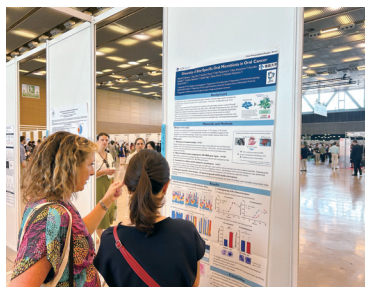
徳島大学大学院 医歯薬学研究部 口腔保健医療管理学分野



国際歯科研究学会(International Association for Dental Research:IADR)は世界最大の国際歯学系学会で、毎年世界各国で学術大会が開催されます。2025年はスペインのバルセロナにて、6月25日～28日の4日間の会期で執り行われました。96の国／地域から4,681人の参加者、口頭発表は354題、ポスター発表は2,595題ありました。

私は普段、口腔細菌と口腔がんの関連について興味を持って研究を進めており、今回は本研究の途中経過を報告すべくポスター発表をしました。ポスター発表では、決められた時間(約1時間)、自分のポスターの前に立ち、興味を持ってくださった参加者と協議します。個人的にじっくり他の研究者と情報交換できるのがポスター発表の醍醐味です。多くの方が立ち寄ってくださり、自分の研究内容を英語で表現し、議論するトレーニングの良い機会となりました。また、大会の空いた時間に、ガウディの建築や本場のパエリアやタパスも楽しみ、また明日から頑張ろう!と思う活力を得ました。

2026年7月には歯科衛生国際シンポジウム(International Symposium on Dental Hygiene:ISDH)がイタリアのミラノで開催されます。歯科衛生士のスキルアップの1つとして国際学会への参加を目標にしてみませんか?



インド(チェンナイ)のSRM Dental College & Hospitalでの講義経験



まつ だ ゆう へい
松田 悠平

島根大学 医学部 歯科口腔外科学講座



2025年2月4日に、当講座に多数在籍しているインド人留学生の出身校であるSRM Dental College & Hospital(インド、チェンナイ)において歯科医師・口腔外科医・デンタルナースを対象とした口腔癌患者の術後性口腔機能障害と口腔健康管理に関する講義を行って参りました。SRMの歯学部長Vevek教授やMeenakshi Ammal Dental College & HospitalのManika教授が迎え入れてくださり、聴講者100人超の満員の中で講演させていただきました。特に周術期等口腔機能管理や

口腔健康管理という概念はインドをはじめアジア諸国の中でも日本が先進的な取り組みを行っていることから、多くの質問が寄せられ、活発な議論を行うことができました。また、海外で90分の講演をするのは私自身はじめての経験であったので、準備を含めて大変貴重な経験を得られました。

インド以外にもスリランカのUniversity of Peradeniyaをはじめ日本との関わりが深い大学や団体がアジア諸国には多くあります。国際貢献に興味のある方が少しでも増えて、日本の先進的な医療をアジア諸国に広める活動に貢献できたらと思います。皆様も国際活動に興味を持ってみませんか?



—— 生涯研修によって広がる歯科衛生士の未来 ——

歯科衛生士を目指して学ぶ皆さん、国家試験合格は大きな目標ですが、そこが「学びの終わり」ではありません。実際に働き始めてからこそ、現場での疑問や課題に出会い、「もっと学びたい」という気持ちが芽生える瞬間がたくさんあります。また、時代の変化に合わせて歯科医療も進化しており、知識や技術のアップデートが欠かせません。こうした学びを支えるために、日本歯科衛生士会では生涯研修制度を整備しています。

日本歯科衛生士会の生涯研修制度は1987年に発足し、時代や社会の変化に合わせて改訂を重ねてきました。現在は、「第5次生涯研修制度」として、歯科衛生士一人ひとりが主体的・継続的に学びを積み重ねられるよう体系化されています。研修は各都道府県歯科衛生士会が主体となって実施しており、講義・実技・グループワークなど実践的で多様な形式が用意されています。

内容は、表1に示すように、歯周治療や摂食嚥下機能療法の基本技術などの臨床分野から、ライフコースに応じた口腔保健、災害支援、医療安全、チーム医療などを扱うリフレッシュコースまで幅広く展開されています。対面研修に加え、オンラインによる受講環境も整備されており、自分の関心や勤務状況に合わせて無理なく継続できるのが大きな魅力です(生涯研修制度の詳細は右の二次元コードからWebサイトをご覧ください)。

そのオンライン学習の一つとして活用されているのが、「DH-KEN」です。DH-KENは、日本歯科衛生士会とデンタルダイヤモンド社が共同で開発したeラーニングシステムで、多岐にわたるテーマの動画研修を提供しており、特に新規入職時の学び直しに加え、新規知識・技術の習得にも適しています。パソコンやスマートフォンを用いて、いつでも、全国どこからでも受講が可能です。受講した内容は生涯研修の単位として認定され、都道府県の研修と同様に積み上げることができます。

さらに、生涯研修を積み重ねた先には、より専門的な知識と技術を磨くための「認定研修」があります。生涯研修の基本・特別・指定研修で一定の単位を修得し、一定の実務経験を有する方を対象に、認定歯科衛生士の取得に挑戦することができます。

表1. 生涯研修制度の研修項目と内容(基本研修より抜粋)

研修コース	研修項目	単位数
A 臨床研修コース	a. 歯周治療の基本技術 b. 摂食嚥下機能療法の基本技術	各15
B リフレッシュコース	a. 幼児・学齢期歯科保健 b. 成人期歯科保健 c. 高齢者歯科保健 d. 障害(児)者歯科保健 e. 歯科薬品・歯科材料等の管理、取扱い方 f. 医療面接 g. 口腔機能低下症 h. 災害支援活動 i. 歯科衛生ケアプロセス(歯科衛生過程) j. 歯科治療の基礎知識 k. 業務記録 l. 口腔粘膜の知識 m. 全身管理 n. 医療の接遇 z. トピックス・その他	15
C 特定コース	a. 歯科診療所等における医療安全管理対策 b. 周術期等の口腔機能管理 c. 在宅歯科医療の基礎	各15



第5次
生涯研修制度について



eラーニング研修の
実施要領

① 生活習慣病予防(特定保健指導・食生活改善指導担当者研修)コース

② 摂食嚥下リハビリテーションコース

③ 在宅療養指導・口腔機能管理コース

④ 糖尿病予防指導コース

⑤ 医科歯科連携・口腔機能管理コース

⑥ 歯科医療安全管理コース

各コースを修了した歯科衛生士は、認定歯科衛生士としてそれぞれの領域でリーダーシップを発揮し、全国の現場で活躍しています。

卒業後も学びを続けることは、患者さんの健康を守るだけでなく、自分自身の成長ややりがいにもつながります。歯科衛生士としてのキャリアは、学びを重ねることでどこまでも広がっていきます。ぜひ、生涯研修制度を活用し、仲間とともに学びの道を歩み続けてください。皆さん一人ひとりの学びが、歯科衛生士という専門職の未来を明るく照らします。

(公益社団法人日本歯科衛生士会 生涯研修委員会)

歯科衛生士養成校での基礎教育

▼ (卒業後)

臨床(経験)、OJT(On-the-job-training)、第5次生涯研修制度

歯科衛生士会が主催する研修/DH-KENによるオンライン研修

▼ (単位認定)

認定歯科衛生士研修・認定取得(各専門分野でのスキルアップ)



生涯にわたる成長とキャリア形成

歯科衛生士としての学びのステップ

学会雑誌について知ろう!

学会雑誌って難しいと思っていませんか? 実は簡単に読めるコツがあります!

1. アクセス方法を知ろう

日本歯科衛生学会雑誌は年2回(8月・2月)発行され、学会ウェブサイトやJ-STAGEで無料公開されています。スマホなどで通学中や空き時間に気軽に読めます。

2. 興味のあるテーマを選ぶ

いきなり難しい論文を読む必要はありません。授業や実習で学んだ内容、卒業研究に関係しそうなテーマから始めると理解しやすいです。

3. 論文の種類を知っておこう

【原著論文】
調査や実験など、新しいデータに基づく研究成果を報告する論文。研究の進め方や考察の書き方を学ぶことができる。
【症例報告・臨床報告】
臨床現場で経験した特徴的な症例を報告する。判断のプロセスを理解するのに役立つ。
【活動報告】
地域活動や教育などの取り組みをまとめた報告。実習やボランティア活動の参考になる内容が多い。
【資料】
歯科衛生に関する有用なデータ、文献、制度などを整理・紹介する論文。

4. 読むときのポイント

最初から全部理解できなくてOK!
タイトル・要旨・図表を読んで、気になる部分を深掘りしましょう。
学会雑誌を読むことは、歯科衛生士としての視野を広げる第一歩。学んだことを活かして、いつか研究成果や臨床での実践を投稿しましょう。

学会雑誌掲載
ページにアクセス



公益社団法人日本歯科衛生士会 JAPAN DENTAL HYGIENISTS' ASSOCIATION 入会の申し込みは… 簡単4Step!

Step 1

ウェブサイトから簡単申込!
入会申し込みフォームに
入力します

※ウェブサイトを開覧できない方は
各都道府県歯科衛生士会
もしくは日本歯科衛生士会
入会専用ダイヤルまで
ご連絡ください
(☎0120-802-039)



Step 2

都道府県歯科衛生士会から
必要な書類が送付されます



Step 3

入会金・
会費などを
支払います



Step 4

入会完了

ウェブサイト
「会員ページ」
ログイン情報をお
届けします
会員証は会員
ページに表示
されます



会費

年会費は、いつ入会しても、4月1日から翌年3月31日までの1年間で前納制になっています。

学生会員からの入会は日本歯科衛生士会入会金が免除となります。

入会金 2,000円 年会費 7,000円

*都道府県歯科衛生士会ごとの会費が加わります。金額については各事務局にお問い合わせください。



お便りお待ちしております

楽しい紙面作りのために、皆さまのご意見や、学生生活の中でのさまざまな情報をお寄せください。

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
日本歯科衛生士会「学生だより」編集係
TEL:03-3209-8020 FAX:03-3209-8023
<https://www.jdha.or.jp>

